

対象	小学校高学年以上
教科	社会科
該当 単元	小学6年 「町人の文化と 新しい学問」 ・ 国学の発展と 新しい時代への 動き
教科書	東京書籍等
掲載日	2018. 6. 15. 朝刊 松阪紀勢版

宣長の勉強法教えます



学問の心得が記された掛け軸などが並ぶ展示＝松阪市の本居宣長記念館で

松阪の記念館で企画展

松阪出身の国学者、本居宣長の学問への姿勢を紹介する企画展「教えて！宣長先生の勉強法」が、松阪市殿町の宣長記念館で開かれ

ている。大家が歩んだ道を振り返り、効率的に学習を進め、知識を積み上げる方法を知ることができる。
(水谷元海)

図で理解／優先順位つける

晩年、学問の心得を問われて詠んだ「家の業」では、家業をおろそかにせず、生活を成り立たせる大切さを訴えた。物事の軽重を見極め優先順位をつける必要性を説いた「本末の歌」もある。井田学芸員は「夏休みと重なるので、子どもたちには宣長の勉強法を参考にし、自ら考える大切さを知ってほしい」と話す。九月二日まで。

歌会は学問を志す仲間を増やす良い機会で、彼らに源氏物語の講釈もした。「一人との触れ合いで得る情報量が格段に増え、後の研究を支えた」と井田もも学芸員(左)。仲間に囲まれ歌会を楽しむ宣長が描かれた掛け軸「鈴屋円居図」(作者不詳)もある。

宣長は八歳の時に松阪で漢文などの手習いを始め、二十三歳で医学を学ぶため京都へ。松阪に帰ると医業の傍ら、歌会に参加し人脈を広げた。生活と趣味、学問を両立させ、六十九歳の時に、日本最古の歴史書である古事記の注釈書「古事記伝」を完成させた。

展示では、生涯、学問に打ち込んだ宣長の勉強法を「ひとりぼっちの物学び」と「人とのつながりの中の学び」に分けて紹介。直筆メモや図、書物など七十九点を並べている。

十二歳ごろから書き始めたメモ「万覚」には、手習いで読んだ書物の内容や、上手な洗濯の仕方、植物の育て方も記され、幼い頃から何にでも興味を持って記録していたことがうかがえる。複雑なことは図にして理解を深める習慣もあり、親族の呼称を整理した「宗族図」や、家系を記した「本居氏系図」も残した。

問1：見出しに宣長の勉強法が二つ書かれています。その事がわかる展示物は何でしょう。

「図で理解」・・・()

「優先順位をつける」・・・()

問2：宣長の学びを年齢を追ってまとめてみよう。

8歳で()の手習いを始め、12歳頃から()というメモ

を書き始め、23歳で()を学んだ。

問3：宣長の代表作は何でしょう。()

【活用にあたって】

6年生の教科書には「仏教や儒教が中国から伝わる前の日本人がもっていた考え方を研究しようとする学問(国学)も広がり、国学を学ぶ人々は古事記や万葉集の中に日本人の心を探ろうとしました」とあり、その一人として本居宣長が紹介されています。

この記事の見出し、「宣長の勉強法教えます」に惹かれてリード文を読んでみると、「大家が歩んだ道を振り返り、効率的に学習を進め、知識を積み上げる方法を知ることができる」と書かれています。

「大家」と記された本居宣長は小学校の6年生で国学の祖として学びます。「生涯学習」という言葉が定着してきた現在では、学生さんだけではなく多くの人々が興味をもつ記事なのではないでしょうか。すぐにでも松阪の宣長記念館へ足を運びたくなりますが、まずは本居宣長についての情報を増やしてみてもはどうでしょう。

解答例

問1： 「図で理解」・・・宗族図 ・ 本居氏系図

「優先順位をつける」・・・本末の歌

問2： 漢文 ・ 万覚 ・ 医学

問3： 古事記伝